

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場が」

カンボジア プノンペン日本人学校 研究・研修主任 森嶋 厚博

目次

「子どもたちのために学習の再開を！」

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

「子どもたちのために学習の再開を！」

- 休校措置が解除されない状況下で、教職員が一丸となり今できる学習活動を考えた。そして、ZOOMと Google Classroomを活用したオンライン授業による学習活動がスタートした。
- 授業を始める準備段階として、外部講師によるオンライン研修会や、研究部会によるZOOMやGoogle Classroomの設定および活用 方法の研修を行った。接続ができない場合の対処方法や、重要な設定のポイントを確認するなど、細かい部分まで研修で情報を共有し、トラブル防止に努めた。
- 春季休み中に各家庭のインターネット環境や パソコンの保有状況を確認し、必要に応じてパソコンの貸し出しをした。そして、各学年で学校と家庭のZOOM接続確認を行うなど、円滑に学習活動ができるように準備を徹底した。

オンライン始業式・着任式

- オンライン始業式・着任式では全校児童・生徒の顔を見ることができた。教職員も子どもたちも大変良い表情をしていた。できる限り通常の式と同じ教育活動をしたという思いから校歌を歌った。画面越しではあるが、子どもたちが元気に歌う姿を見て学校らしさが戻ってきたと感じた。
- 式はZOOMが使用できる40分間を予定していたが、開始15分前にZOOMにアクセスしていた児童がいたため、式の途中で接続が切れそうになった。しかし、教務主任が機転を利かせて制限時間無しの有料版に間一髪切り替えたことで予定通り実施することができた。
- 終了後、子どもたちの元気な姿を見ることができた喜びと、達成感で職員室には拍手が沸いた。この日から教職員は「臨機応変」に対応するように心がけるようになった

オンライン授業開始

- オンライン授業開始初日、トラブルに対応するため教務主任と専科がサポートをした。全てが初めてのことであったが、教職員の連携により円滑に授業を進めることができた。学習を進める中で、ZOOMにはホワイトボード機能や画面共有機能など、学習効果を高める機能を活用するようになった。
- より質の高いオンライン授業ができるように、ZOOMの機能や設定を紹介したり、授業で実際に使用した教材等を紹介したりする研修会を実施し、教職員全体の指導力向上に努めた。

他国の日本人学校との連携

- 他国の日本人学校ではどのようなコロナ対策をしているのか、各校のホームページを見て情報収集した。ミュンヘン・ボゴダ・デリー・アブダビ・ヤンゴン日本人学校の教職員と意見交換をして、オンライン授業の準備を一緒に進められたことは、大変心強く感じた。
- 特に研修会で同じグループだったヤンゴン日本人学校校長先生から様々な授業をする上での助言や励ましのメールを多数いただいた。世界中の日本人学校の教員が連携をとり、課題を共有し解決に向けて知恵を出し合った。

オンライン授業の課題

- オンライン授業で課題にあがったのは、学校のインターネット環境の不備である。途中で接続が切れたり、音声途絶えたりして、円滑に授業を進めることができなかった。その対応策として教職員の在宅勤務を実施した。
- それと同時に学校のインターネット環境を改善するために業者に依頼した。いずれもスピード感をもって迅速に対応した。在宅勤務に切り替えると、接続状況は大きく改善された。

児童生徒・保護者アンケートの実施

- オンライン授業がスタートして2週間経過後に、授業に関する児童生徒・保護者アンケートを実施した。アンケートを実施することで児童の実態を把握し、学習指導に生かすためだ。また、保護者の意見を聞き改善することで、学校への信頼を高めたいと考えた。
- 保護者のアンケート結果は感謝の言葉や、オンライン授業がうまく機能しているという意見が多数あり、大いに励みになった。
- 一方で「授業時数を増やしてほしい」「教材資料をフォルダ等に共有してほしい」という意見を受けて、3時間授業から4時間授業に増やし、Google classroomに資料を保管する方法などを教職員研修会で共有した。

運動不足解消！朝のエクササイズ！

- 新型コロナウイルスの影響で懸念されたことの一つは、どうしても座学中心となるため子どもたちの体力低下である。
- そこで、朝の全校集会の時間にエクササイズを実施して体力向上を図った。内容はストレッチ体操・ラジオ体操・ダンスの3つである。
- 小学部1年生から中学部までが踊れる振り付けを考えたり、高学年も楽しめるようなダンスを取り入れたりして、みんなが楽しめるように工夫した。
- また、運動の後に教職員に関するクイズを実施し、先生と子どもたちを繋ぐ機会を作った。児童生徒アンケートによると、クイズが楽しいと好評であった。

校内研究をオンライン授業研修に

- 校内研究をオンライン授業に関する研究・研修へと変更し、現実在即した研究・研修にした。
- 昨年度の研究の引継ぎでは「現地理解を深める教育活動」について校内研究を進める予定であったが、現地校交流ができない状況を考え、オンライン授業及びGsuiteの活用の特化した研修会を実施している。
- また、学習アプリや学習サイトの紹介をしたり、授業での困り感を共有して解決策を考えたりして、より学習効果の高い授業が展開できるように努めている。
- 教職員アンケートを実施し、研修で学びたい内容や、研修のアイデアを募り教職員のニーズに合った研修を実施できている。

始業式前日の学校長からのメール

- 【「明けない夜はない」「春のこない冬はない」「ピンチはチャンス」
新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機を、ITという利器を借りて、
私たちプノンペン日本人学校に集う者が叡智を絞り出して共に乗り越えて
まいりましょう。】
- この言葉は、新年度が始まる前日に14日間の自宅隔離中の村上校長から
教職員全体に配信されたメール内容である。この言葉に教職員の士気も
上がり、教職員一丸となって乗り越えようという気持ちがさらに高まった。
- ピンチをチャンスと捉え、ICT機器やGsuiteの活用方法をマスターする良い
機会になると前向きに考えられるようになってきている。教職員同士が知恵
を出し合い、問題解決に取り組んだことで、昨年度以上に絆が深まっている
と感じる。教育に対する情熱はオンライン授業でも健在である。

① 学校の規模や子どもたちの実態

- 在籍人数38名(30家庭) 男子21名・女子17名

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 3月16日の電子新聞でカンボジア全学校の休校措置が発表された。
- プノンペン日本人学校は3月12日に卒業式、13日に修了式・離任式を行うことができたが、予定していたイオンの室内ホールではなく、風通しのよい運動場で行った。
- 国民的祝日である4月のクメール正月休みが延期となり、各州間の移動が規制されるなどの厳戒態勢 がとられた。
- 今はかなり制限は緩和されてきつつあるものの、政府の発表によると5月末現在・感染者 125名中123名が完治しているものも、外国からの帰国者を中心に罹患者が出ている。

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければ いけなくなった経緯

- 新型コロナウイルス感染症自体は、落ち着いているようにみられるが、学校衛生環境の厳しさ（1クラス50名～60名、手洗い場の不十分さ等）と医療体制の厳しさ（新型コロナウイルス感染症に対応したベット数が少ない等）のためクラスターが発生しやすいと考えられる学校の休校措置は延期のままである。
- このように休校措置が解除されるまで全学校で登校することができないため、ZOOMを活用したオンライン授業を継続することになった。

④ 実際の取り組み

(1) オンライン授業研修会を実施

- オンライン授業を始める前にZOOMを活用するにあたり、ほとんどの教師がZOOMの扱いは初めてであるため、外部講師を招聘してオンライン講座を実施し基本操作に慣れることとした。
- また、研究・研修部会を中心にオンライン授業の進め方やZOOMの機能や設定に関する研修を繰り返し実施した。

(2) ZOOMの接続確認を新学期が始まる前に実施

- オンライン始業式・着任式を実施するにあたり、事前に保護者の協力を得ながら、学校と各家庭とのZOOM接続確認を実施した。

(3) オンライン始業式・着任式

- 始業式・着任式はオンラインで実施した。
- 4月20日に実施予定であったが新型コロナウイルスの影響により1週間延期し、4月27日に実施した。
- しかし入学式は、一生に一度の儀式であるので登校時に実施することとした。

(4) 校内研究をオンライン授業に関する研究・研修に変更

(休校措置が解除されるまで)

- 昨年度の研究の引継ぎでは「現地理解を深める教育活動」について校内研究を進める予定であったが、オンライン授業及びGsuiteの活用に特化して研修をすることに変更した。

(5) 朝タイム・エクササイズの時間に全校児童・生徒でラジオ体操やダンスを実施

- 8:00～8:15に全校児童・生徒・教員がZOOMで繋がり、ラジオ体操・ストレッチ体操・ダンスを実施している。全校児童・生徒の顔を見ることが出来るよい機会となっている。

(6) エクササイズ後に先生クイズ

- 教職員の好きなスポーツや特技などをクイズ形式で紹介し、新任の先生のことを児童・生徒に知って もらう機会を作っている。また、スポーツに関心がもてるように工夫している。

(7) 児童・保護者アンケートを実施

- 児童・生徒や保護者にオンライン授業アンケートを実施し、児童の実態把握や学習にあたり困っていることを把握し、改善に生かした。

➤ 児童アンケート

- ・ 「先生が提示する資料は見やすい」という質問に対し92%の児童が肯定意見
- ・ 「ZOOMでの授業に慣れた」という質問に対し86%の児童が肯定意見

児童アンケート(楽しいと思うこと)

- ・ 日本にいる子とも一緒に授業ができる。
- ・ みんなの顔を見て、意見を発表したりできる。
- ・ みんなで考えたり、答えをもとめたりすること。
- ・ 朝の会の先生クイズ
- ・ みんなと一緒に話すことができること。
- ・ エクササイズの時間にみんなと一緒に踊っている気分になって楽しい。
- ・ 家族と一緒にダンスができて楽しい。
- ・ 勉強が分かった時や、みんなと意見を共有することができると楽しい。

児童アンケート(困っていること)

- ・ インターネット環境が悪く、時々音声が途切れたり、つながらなくなったりすると困る。

➤ 保護者アンケート：肯定的な意見や激励の言葉、感謝の言葉が多数寄せられた。

- ・初の試みということで先生方は準備から実際の授業まで、ご苦勞があったかと思います。それでも素早く対応していただきました。本当に感謝しております。学校に行けない中、オンラインでも授業が開始できたことに安堵しています。
- 1. 朝の体操の動画が共有されたのが良かったです。新しい体操はフライングで先に見て、実際に踊るのを楽しみにしていました。またこの時間に、他の子どもたちの姿を見られるのが楽しみです。先生クイズも、新しく赴任された先生のことを知る機会になっており、毎日楽しみにしております。たまには校長先生の一言があったりすると、親しみやすくなって良いかと思います。
- 2. 「オンライン授業は場所を問わないので、日本にいる友達、イギリスの先生とも一緒に勉強できるのが嬉しい」と4年生の娘は言っています。これくらいの学年になると自分で接続してチャットもできるため、授業の合間に子ども同志でお喋りして楽しんでいます。
- 3. 他方で1年生の息子は、どうしても画面に集中しにくいようです（これはうちの息子の性格によるところが大きいと思うので、学校再開後にクラスで授業が始まっても状況は同じだと察します）。授業中に、親が隣からどこまで口を出すのか（出さないのか）、いつも気になっています。どのようにサポートすれば良いのか教えてください。

（アンケート原文まま）

⑤ 苦労した（している）こと

- カンボジアはインフラ整備が不十分で、Wi-Fiの調子が悪いため、インターネットが繋がらなかったり、停電したりすることがある。
- オンラインで提示する資料作成に時間がかかる。
- オンライン授業で知識が定着しているのかを確認することが難しい。
- ZOOMが40分で切れてしまうため、尺が短い。
- 子ども同士をどうやって関わらせたらよい授業になるのか悩んでいる。
- 子どもの学習環境が自宅のため、学習規律の徹底が難しい。

（教員アンケートより）

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 子ども達の顔が画面にアップで映るので、表情がとらえやすく「わかった」や楽しいという一人ひとりの反応が直接伝わってくる。
- 登校できなくても子ども達と一緒に授業ができることはうれしい。
- 子どもの意見を聞いたり、発問に対して反応があることがうれしい、一方通行の授業ではなく、双方向のオンライン授業だからこそという感じがする。
- 朝の会で健康観察や連絡や話をするとう級らしい雰囲気生まれてきてうれしい。
- 子どもの反応を見ることができる。デジタル教科書を使用することで、子どもの様子をよくみながら教えられる。
- 時間をかけて作成した資料をうまく活用して授業をすることができると嬉しい。
- アンケートで保護者から温かい言葉や感謝の言葉をもらい大変励みになった。
- 教職員が一丸となってより良い授業ができるように知恵を出し合い実践していくことにやりがいと喜びを感じる。
- 授業の進め方やそれぞれの先生の取り組みを紹介しあったり、研修を通して高めあったりできること。

⑦ 今後への課題

- オンライン授業が続いていく中で、教職員のモチベーションを維持すること。
- 中学部は成績評価をどのようにするか検討する必要がある。
また、予定していた行事が延期・中止になっている。
年度当初に予定していた校外学習も実施が難しい状況である。
臨機応変に対応することが大切だと考える。
- 休校措置が解除された後、前期に活動ができなかった特別活動や学校行事の代替策をどうするか。
- いつ休校措置が解除されるのか見通しが立たないこと。